

広報

おまぐず

2018

12

No.167



がんばろう!大洲

がんばる大洲っ子

生徒会長の1年を振り返って

大洲東中学校3年

旭 良 浩 さん



大洲東中学校の良いところは、人懐こい生徒が多く、学年を越えた交流が盛んに行われていることだと思えます。僕が生徒会長として活動してきて、改めてこのことを強く感じました。

2学期から、社会の関心を深める目的で、6紙の新聞を校舎内に置いていきます。読み比べると、伝え方が異なる点が面白く、以前よりもニュースを見る機会が増えました。

生徒会長の1年間は、あつという間に過ぎました。振り返ると、ああすれば良かったと思うことがたくさんあります。きちんと引き継ぎを行い、次の生徒会長には、より良い大洲東中学校をつくってほしいと思います。

僕は、中学校で一生懸命頑張ってきた野球を高校でも続けたいと思っています。将来の夢であるスポーツ関係の仕事に就くために、大学への進学も考えています。大変なことかもしれませんが、文武両道の実現を目指したいです。

12月の納税など

納期限は12月25日(火)です。

税 別	12月	1月	2月	3月
市 県 民 税	4期		5期	
固 定 資 産 税		5期		
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	6期	7期	8期	9期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

人の動き(先月比)

人 口 43,471人 (- 69)
男 20,735人 (- 36)
女 22,736人 (- 33)
世帯数 19,915世帯(- 26)

交通事故(昨年同期)

件 数 72件(89件)
死 者 0人(3人)
負傷者 94人(116人)

(2018年10月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ	(特集1)災害に備えて私たちにできること
4 ページ～	平成30年7月豪雨関連
7 ページ	(特集2)初出場、初メダル
8 ページ	おおずニュース
9 ページ	シリーズ
10ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれO級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (Reboot Market)

今月の表紙



肱南保育所を訪れた
ウルトラマンゼロ

平成30年7月豪雨で被災した子どもたちに元気を届けるため、ウルトラマンシリーズに登場するヒーローたちが、10月18日(木)、市内5カ所の保育所と幼稚園を訪れました。

子供たちは、一緒に体操をしたり、記念写真を撮って楽しんでいました。

(特集1) 災害に備えて 私たちにできること

～三善地区 自主防災組織～

死傷者ゼロの三善地区

平成30年7月豪雨では、市内の多くの地域で浸水被害が発生しました。三善地区でも、約60戸が床上浸水しましたが、逃げ遅れた住民はおらず、死傷者もいませんでした。

高齢者も多く住んでいるにもかかわらず、素早い避難行動ができた理由は、三善地区の自主防災組織の日常的な取り組みにありました。今回は、その自主防災組織の活動について紹介します。

内閣府の「モデル地区」に選出
内閣府では、「災害・避難カード」の普及を目指し、モデル地区を募

集していました。三善地区は、この事業に応募し、平成28年度モデル地区として選出されました。

その後、三善地区自主防災組織は、住民自らが「災害・避難カード」を作成するため、ワークショップを3回開催しました。内閣府の防災担当や、大洲河川国道事務所、松山地方気象台、県・市による支援・助言が行われ、住民約80人が参加しました。

作成した「災害・避難カード」

ワークショップを通して作成した「災害・避難カード」は2種類あります。1つは、首から提げるタイプのものです。名前や生年月

日だけでなく、持病や飲んでいる薬を書く欄があります。避難するときには、このカードを身につけるように周知しています。



首から提げる「災害・避難カード」
避難生活を想定して必要事項を記入し、名札としても使用できる

2つ目は、A3判のもので、指定避難所や危険エリアが示されています。三善地区では、過去にも大規模な水害が発生していて、これらの経験をもとに、あらゆるケースを想定し作成されました。



浸水想定区域や、土砂災害警戒区域が記されている

避難計画の見直し

1、2回目のワークショップでは、地区を構成する4つの集落ごとに話し合い、それぞれの地域の実情に沿った避難行動を検討しました。その中で、避難に支援を要する人を「気にかける人」と位置づけ、避難する際に、担当する住民が積極的に声がけを行うようにしました。

3回目のワークショップでは、災害・避難カードを用いて避難行動を実施し、実際の避難ルート、避難場所の安全性や所要時間などを確認しました。その後、避難訓練を振り返り、避難計画の見直しと意見交換を行いました。

地域全体の防災意識

三善地区の自治会長である窪田さんは、「比較的安全な場所に住んでいる人にもこのカードの着用を促している。地区に住む全員がこのカードを使用することで、地域全体の危機意識が高まると思う」と話していました。

いつ発生するか分からない災害に備え、各家庭においても、避難所や所要時間の確認、食料の備蓄など、日ごろから準備しておくことが大切です。



三善地区 自治会長

かめいち
窪田 亀一 さん

「自治会長として、地域を守ることは当然のこと。役員のみなさんも、平成28年度に選出された内閣府の事業に前向きに取り組んでいただいた。これからも、対話を中心とした地域づくりを行っていきたい」

肱川緊急治水対策（平成30年9月7日国土交通省公表）

（平成30年7月豪雨関連情報）

- ▽今回、甚大な浸水被害が発生した肱川水系では、緊急的対応を含めた3段階で実施。
- ▽おおむね5年間で、平成30年7月豪雨の流量が越水しないよう、集中的に実施する河川改修事業（いわゆる「激特事業」）などにより肱川中下流部において築堤や暫定堤防のかさ上げなどの整備を実施するとともに、それによって可能となる野村ダムと鹿野川ダムの操作規則の変更を実施。さらに、野村ダム下流においては掘削などの対策を併せて実施。
- ▽おおむね10年間で、平成30年7月豪雨時と同規模洪水を安全に流下させるために、さらなる河川整備などを推進するとともに、山鳥坂ダムの整備を実施。
- ▽これらのハード対策のほか、平成28年3月に国、愛媛県、流域5市町で水防災意識社会の再構築を目的に立ち上げた「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」において、関係機関が連携しソフト対策を追加。

1. 緊急的対応

河川（国・県）

- ▽予備費による樹木伐採、河道掘削
- ▽野村ダム下流などの土砂堆積部の河道掘削
- ▽暫定堤かさ上げ（+0.7m）

野村ダム

- ▽事前放流（600万m³を確保）
- ▽洪水貯留準備水位のさらなる低下*

野村ダム、鹿野川ダムの放流警報

- ▽新たな放流警報手法（試行開始）

<平成31年～>

鹿野川ダム改造により増大した容量の有効活用

- ▽野村ダム操作規則変更*
- ▽鹿野川ダム操作規則変更*

※詳細は検討中

2. 約5年後

下流河川（国・県）

- ▽激特事業による堤防整備、暫定堤防の嵩上げなど

野村ダム下流など

- ▽河道掘削などの対策を実施*

激特事業による流下能力向上により

可能となるダム操作規則の変更

- ▽野村ダム操作規則変更*
- ▽鹿野川ダム操作規則変更*

※詳細は検討中

3. 約10年後

さらなる河川整備など

山鳥坂ダム完成
2026年度



山本防災相が 大洲市を視察

山本順三^{（山本）}国家公安委員長兼防災担当相が10月22日(月)、平成30年7月豪雨の被災地視察のため、大洲市を訪れました。大洲市役所では、大洲市、西予市、宇和島市の3市長と防災対策について意見交換を行いました。また、3市長は連名で、肱川の治水対策や住民避難につながる情報伝達手法の確立などを求める要望書を提出しました。



その後、山本防災相は、三善公民館を訪れ、自治会役員らから自主防災組織の取り組みについて話を聞きました。山本防災



肱川緊急治水対策

9月に行われた住民説明会で、国土交通省より肱川緊急治水対策の説明がありました。

甚大な浸水被害が発生した肱川水系において、「緊急的な対応」「概ね5年間」「概ね10年間」の3段階で対策が実施されます。

住民説明会の資料については、山鳥坂ダム工事事務所ホームページに掲載しています。

【掲載場所】
<http://www.skr.mlit.go.jp/yamatoso/> ↓ サイト下部の「平成30年7月豪雨関連資料」

肱川流域図



平成30年7月豪雨被害に対する河道整備概要(肱川など)

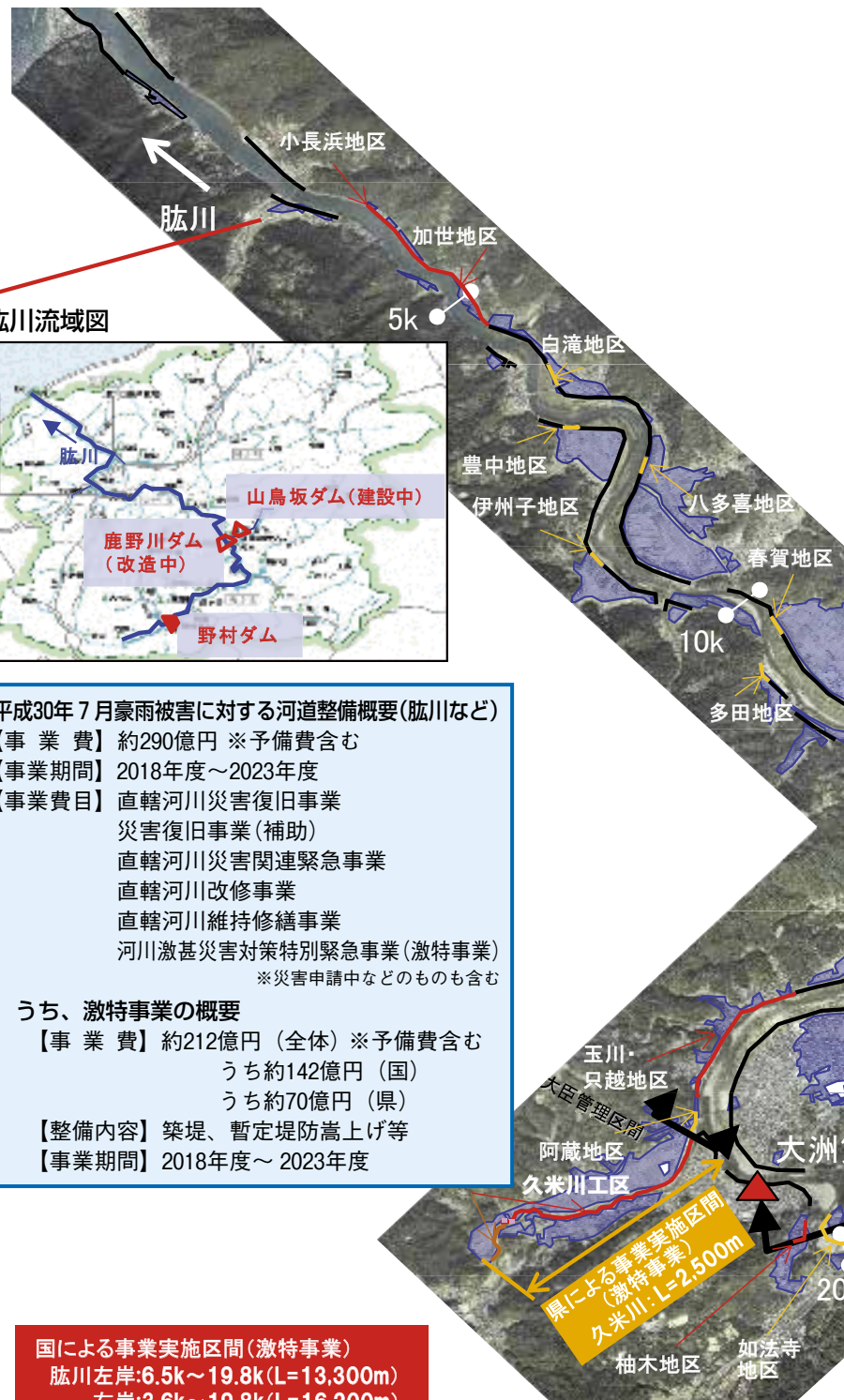
【事業費】 約290億円 ※予備費含む
 【事業期間】 2018年度～2023年度
 【事業費目】 直轄河川災害復旧事業
 災害復旧事業(補助)
 直轄河川災害関連緊急事業
 直轄河川改修事業
 直轄河川維持修繕事業
 河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)
 ※災害申請中などのものも含む

うち、激特事業の概要

【事業費】 約212億円(全体) ※予備費含む
 うち約142億円(国)
 うち約70億円(県)
 【整備内容】 築堤、暫定堤防嵩上げ等
 【事業期間】 2018年度～2023年度

国による事業実施区間(激特事業)

肱川左岸:6.5k～19.8k(L=13,300m)
 右岸:3.6k～19.8k(L=16,200m)



県議会の対策本部による要望聴取

相は、「先進的な事例である三善地区の活動を参考に、災害の対応を改めて分析していきたい」と話しました。



愛媛県議会が立ち上げた復興支援対策本部が、10月30日(火)、大洲市を含む3市を訪れ、復旧・復興に向けた要望を聴取しました。

大洲市からは、「防災行政無線の整備に対する支援」「被災農業者向け経営体育成支援事業」「新たな河川整備計画の策定」など17項目を記した要望書を愛媛県議会議長に提出しました。

「がんばろう！大洲」ロゴタイプの活用について

「がんばろう！大洲」のロゴタイプは、平成30年7月豪雨により甚大な被害を受けた大洲市の復旧・復興に向けて、機運の醸成、産業の振興や観光・農林水産物のイメージアップなどへの取り組みを大洲市全体で推進するため作成したものです。

「使用上のきまり」をご確認のうえ、大洲市の復興に向けて、ご活用ください。



ロゴ使用上のきまり

【使用の申請】

団体・個人にかかわらずロゴタイプを自由に使用できます。

ただし、大洲市内の小売業者が商品などに使用する場合は「ロゴ使用申請書」を提出し、許可を受けてから使用してください。大洲市外の業者は商品などには使用できません。

※使用申請書は、市公式ホームページからダウンロードできます。

【その他】

ロゴタイプのフォントおよび色を変更することも可能です。

【問い合わせ先】

復興支援室 ☎24-1728

<http://www.city.ozu.ehime.jp/soshiki/fukkoushen/30348.html>

がんばろう！大洲

被災者生活再建支援制度の受付期間を変更します

被災者生活再建支援金申請については、広報おおず9月号でお知らせしていましたが、受付期間を次のとおり変更します。

【被災者生活再建支援法に基づく支援金申請】

基礎支援金、加算支援金ともに1日算定誤りがありましたので、お詫びのうえ訂正します。

▽基礎支援金

変更前 2019年8月5日(月)まで

変更後 2019年8月4日(日)まで

▽加算支援金

変更前 2021年8月5日(木)まで

変更後 2021年8月4日(水)まで

【県独自の特別支援金】

居住する住宅の解体を予定している世帯については、相当の期間を要するため、受付期限を延長します。

変更前 2019年1月11日(金)まで

変更後 2019年3月31日(日)まで

【お問い合わせ先】

社会福祉課障がい福祉係 ☎24-1758

大洲市災害復旧支援事業補助金について

大洲市では、平成30年7月豪雨で被災した中小事業者に対し、被災した設備・備品などの修繕・購入に活用できる「大洲市中小事業者災害復旧支援事業補助金」の申請を受け付けています。ぜひ、ご活用ください。

【申込受付期間】 12月25日(火)まで

【補助対象者】

大洲市内で被災した事業所を有する中小企業・小規模事業者

【補助対象経費】

被災した施設や設備の修繕費・購入費など

【補助率】 補助対象経費の2分の1以内

【補助金額】 1事業者に対し上限100万円以内

【注意事項】

申込添付書類として「り災証明書」「被災状況の写真」「設備・機材の買い替えや修繕に要した費用の見積書・請求書・領収書」などが必要です。

【お問い合わせ先】

商工産業課 ☎24-1722



水泳競技に参加した愛媛県選手団

第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」が、10月13日(土)から15日(月)までの3日間、福井県営陸上競技場を主会場に各地で実施されました。愛媛県からは、個人競技56人、団体競技15人の選手が参加し、金メダル31個を含む、合計59個のメダルを獲得しました。

水泳競技は、敦賀市総合運動公園プールで実施され、障がいの区別で競技が行われました。愛媛県から参加した7人の中に、長浜中学校に通う寺坂友希^{ともき}さんがいました。寺坂さんは、この大会が初出場でありながら、25メートル自由形で2位、50メートル背泳ぎで1位に輝きました。



長浜中学校 3年

寺坂 友希^{ともき} さん



獲得した金メダル(左) 銀メダル(右)

僕は、生まれつき足に障がいがあります。小学校4年生のときに、大きな手術をしました。その手術の後に行ったりハビリが、水泳との出会いです。

始めのうちは、泳いでいるのか、溺れているのか自分でも分からなような状態でした。とても苦しくて、つらい思いもしてきました。しかし、コーチの熱心な指導により、少しずつ泳げる距離を伸ばすことができました。

水泳を始めたころは、自分が障害者スポーツ大会に参加するなんて、全く考えていませんでした。それほど、このような大会は、遠く存在だと思っていました。

水泳競技が行われた場所は、自然が豊かで、大洲に似ているように感じました。いつもとは違う大



50m背泳ぎゴールの瞬間

きな会場で、少し緊張しましたが、県の先輩選手からの声かけがあり、全力で泳ぐことができました。出場した2種目で、メダルを獲得でき、水泳を続けてきて良かったと思いました。今は、記録が伸びるかもと期待しながら、楽しく水泳をしています。これからも、障害者スポーツ大会をひとつの目標として、水泳を続けたいと思います。



金メダルを獲得して喜ぶ寺坂さん

友希さんとともに福井県へ遠征した母・亮子^{りょうこ}さんは、「今回の福井大会に参加できて、本当に良かった。たくさん人の温かみを感じることができた。友希には、身体に無理のない範囲で、水泳を続けてほしい。私は、大会の参加までの過程が大事で、結果は重要ではないと思う。これからも全力で支えていきたい」と話していました。寺坂さんの福井大会での活躍は、これからの人生において、大きな自信につながると思います。来年度、茨城県で行われる国民体育大会・障害者スポーツ大会でも、寺坂さんをはじめ、多くの愛媛県の選手が活躍することを期待しています。